浅野誠

我が庭畑

２０１１～２０１２

森のなかにある自然豊かな我が家。それでも、庭畑を楽しんでいる。この地で生活し始めて15年が近づきつつあるが、どんどん変化している。その姿を紹介していこう。ブログ「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」（現在継続中の「沖縄南城・人生創造・浅野誠」の前身）に掲載した記事のなかから2011年、2012年のものを編集した。

2018 年 4 月編集発行

目次

※ 掲載は、章ごとに、ブログ掲載年月日順だ

畑庭作業

野菜収穫と食糧難の鳥たち　２０１２年１２月１７日
湧き出る地下水を、池を作って貯められるか　夢の構想！？　２０１２年１２月１２日
マンゴー　パパイヤ　ボルトジンユ　ウリズンマメ　アプルミント　２０１２年１２月８日
苗植え・種蒔き　このごろの畑作業　２０１２年１０月２７日
季節替わりの我が畑　秋に向けての作業スタート　２０１２年１０月３日
庭の通路に敷石と玉砂利を敷く　２０１２年８月２日
気楽な私流農法　混植　２０１１年１２月５日
岩に育つタイム・ハママーチ・長命草　２０１１年１１月１７日
いまだに大量の蚊に苦戦する畑作業　２０１１年１１月１３日
梅雨から本格的夏にむけての畑作業　２０１１年５月２０日
沖縄での自然農法・有機農業関連書籍　２０１１年５月１８日
最近の畑作業と、鏡山悦子「自然農・栽培の手引き」　２０１１年４月３０日
このところの畑　コンポストづくり　植えかえ　種苗　２０１１年３月３０日
我が畑風景　収穫種類が急増　２０１１年３月４日
私流と自然栽培　２０１１年2月９日～２６日
１．「降りてゆく生き方」と「日と水と土」
２．無肥料・自然栽培と自然農法
３．地域の味の消滅　日本酒と泡盛
４．有機農法と糞尿肥料
５．硬い土の層・我が畑の土・土づくり
６．ミミズ・雑草・堆肥・土
７．果樹の剪定　自然の流れと人間のやり方
８．種　自然生え
９．農薬・防虫剤

野菜

ニラ　ネギ　ミニトマト　２０１２年１１月１８日
モーイ　２０１２年９月１２日
ウンチェー（エンサイ）　２０１２年７月２２日
モロヘイヤ　２０１２年7月１２日
アスパラガス　２０１２年６月２１日
なた豆　２０１２年６月１７日
はんだま=すいぜんじな　２０１２年６月７日
カンダバー（さつまいもの葉）　２０１２年６月３日

ツルムラサキ（ツルムラ）　２０１２年５月３０日
ミツバ　２０１２年５月２７日
リュウキュウアシタバ（インドヨモギナ）　２０１２年５月２０日
シマラッキョウ　２０１２年５月１７日
セロリ　２０１２年５月１４日
わさび菜　２０１１年１２月２５日
ルッコラ　シュンギク　レタス類　セントジョンズワート　２０１１年１２月２４日
ウリズンマメ=リュウキュウシカクマメの大収穫　２０１１年１０月９日
しまな＝からしな　２０１１年７月１２日
サトイモ　台風後の回復　２０１１年６月１４日
ほぼ全滅の野菜　生き残った野菜　台風１０号　２０１１年６月４日
シカクマメ＝ウリズンマメ　２タイプの発芽　２０１１年５月９日
ミニトマトの豊作　ペピーノの実　２０１１年４月２２日
島ニンジン？の花　２０１１年４月１７日
なすの花　２０１１年２月１７日
チマサンチュ　２０１１年１月１８日

草花・樹木

我が畑庭が森へと育っていく　台風被害からの回復は早い　２０１２年１２月２８日
ニンニクカズラ　ホワイトサポテ　アーティチョーク　２０１２年１１月１２日
クミクスチン　チシャノキ　コーヒーの実　台風後、元気な植物　２０１２年１１月９日
台風の潮風にやられた我が家の植物　２０１２年１０月８日
我が家のガジマル三態　２０１２年９月２０日
サンセベリア（トラノオ）の花　２０１２年８月２１日
トレニア・コンカラー　２０１２年８月９日
サガリバナ=さわふじの開花　２０１２年７月２１日
我が庭・畑の花たち　２０１２年５月１日
ブーゲンビリア　バジル　２０１２年３月３日
メイフラワー　２０１２年３月１日
ポトス・タマリュウ・オリズルラン・観葉植物が繁茂する中庭　２０１１年１２月２９日
水槽のハスの花とフウリンブッソウゲ　２０１１年１１月７日
アサヒカズラ＝ニトベカズラ開花　２０１１年９月３０日
我が家の樹木「目通り」≒幹回り　２０１１年版　２０１１年９月７日～１６日
クワズイモの花と実　２０１１年８月３日
アナナス１輪咲き続ける　２０１１年７月３１日
グッピー水槽にハスが咲く　２０１１年７月２６日
さるすべり開花　２０１１年７月１４日
オオバナアリアケカズラ=アラマンダの大量開花　２０１１年７月１日
グッピー甕がホテイアオイ甕になった　２０１１年７月１日
ジャスミン・マツリカ（ムイクヮ）の大量開花　いい香り　２０１１年６月２８日

アマリリス	２０１１年６月８日
シッサスの葉が全部落ちる　　潮風に強い葉、弱い葉	２０１１年６月３日
テンニンカ	２０１１年５月２８日
月桃＝さんにんの花	２０１１年５月１９日
蘇鉄の丸いもの（つぼみ？）が膨らむ	２０１１年５月１５日
ユリの開花	２０１１年５月１４日
スパティフィルム　本日開花	２０１１年５月１０日
我が家自慢の二段花ハイビスカス、今年もますます美しく	２０１１年４月３０日
蘇鉄の新葉いろいろ	２０１１年４月２８日
森の中の我が家　中山バス停から見る	２０１１年４月２７日
鮮やかな紅白　ブーゲンビリアとティートリー　我が家	２０１１年４月２６日
キバノタイワンレンギョウ（キバタイワンレンギョウ）	２０１１年４月２５日
タイワンレンギョウの開花	２０１１年４月２３日
オクラレルカ	２０１１年４月２１日
ハイビスカス　シュンギク　日日草　コデマリ	２０１１年４月２０日
アマリリス　ティートリー　ボリジ	２０１１年４月２０日
満開のブーゲンビリア	２０１１年４月１４日
ホコバテイキンザクラ	２０１１年４月４日
シッサス	２０１１年４月２日
とらのおらん＝サンスベリア「並木」	２０１１年４月２日
蘇鉄の新芽	２０１１年３月２３日
バラ	２０１１年３月１８日
ユーフォルビア・ダイアモンドフロスト	２０１１年３月１７日
ハイビスカス	２０１１年３月１５日
マンゴー・ライチ・メイフラワー・クロキなど　我が庭・畑の鳥瞰	２０１１年３月６日
すいせん開花	２０１１年３月２日
もう一つのセイロンベンケイ	２０１１年２月１５日
リュウキュウコスミレ	２０１１年２月９日
セイロンベンケイの開花	２０１１年２月６日
千年木の開花	２０１１年１月３１日
外壁を登る巨大ポトス	２０１１年１月４日
二段花ハイビスカス	２０１１年１月１日

薬草・ハーブ・果樹は、すでに公開している「動植物シリーズ」の「１．我が家のハーブ」「４　我が家の薬草」「６　我が庭畑の果樹」に収録したので、参照されたい。

畑庭作業

野菜収穫と食糧難の鳥たち　　２０１２年１２月１７日

野菜収穫が本格化し始める。
立派になったミニトマトが色づくのを待っていた。ところが、まだ青いミニトマトが取りに食べられた。
あわてて、青いままいくつか収穫した。

鳥は毎年のように、畑に食糧をあさりにくるが、台風被害が甚だしかった今年は、より一層の食糧難で大変だろう。我が家入口の鉢植えの中の虫を取るために、落ち葉をまき散らしている。

ウリズンマメは、今年は台風被害のため絶滅状況になり整理したが、最後に１０個ぐらい収穫できた。

地面から２０センチぐらいは残した。こうすると翌年そこから出てきて、立派に収穫できることがあるからだ。
畑のなかにスイセンが開花していた。スイセンは、ここに住み始める時、愛知の家から大量に持ってきたが、気候があわないのか、開花率がとても低くて処分した。それでもあちこちに球根が残っていて、毎年、あちこちで、忘れたころに開花する。

湧き出る地下水を、池を作って貯められるか　夢の構想！？　２０１２年１２月１２日

今年の降水量はすごい。この地に住んで８年で最高だ。そのためだと思うが、地下水が、我が庭畑の何カ所にも湧き出てくる。少なくとも４ケ所は確認撮影したので紹介しよう。庭から畑へと１メートルぐらい低くなっ

たところが、わかりやすい。撮影した８日（土）は、それまで３～４日降雨がなかった日だが、まだ湧き出ている。

庭も、ぐちゃぐちゃしているところが多いが、そのなかでも、水量が多そうなところが、芝生の南端だ。

この地は、３キロぐらい東にある垣花樋川と同じように、丘の中腹にある。丘の基盤にたまった水が、水を通す石灰岩層の中をくぐってきて、水を通さないクチャ（泥岩層）の上から湧き出るという仕組みだ。

今年ほど多くはないが、毎年大雨の時は、同じようなところから水が湧き出てくる。

池の作り方について、現在インターネットサイトなどで調べて研究中だ。

この話をしたら、ある方に「普通の人なら、地下水が建物に与える悪影響を心配するが、池を作ろうとは」とあきれられてしまった。

その心配はしないでもないが、我が建物の基礎は、地盤のボーリング調査にもとづき、数メートル掘ってクチャ層の中に作ってあるので、大丈夫だと信じている。その基礎の柱の上部横を地下水が通っているイメージだろう。

そして、この池予定地の上方の芝も上手く育っていないので、らせん型ハーブガーデンに転換しようかと思案中だ。

緑の芝生は、孫たちが遊んだり、私たちがくつろいだりする目的だったが、孫が滞在する夏休み期間は、大量の蚊が発生するので、孫はここでは遊ばない。だったら思いきった改造を考えよう、ということなのだ。

マンゴー　パパイヤ　ボルトジンユ　ウリズンマメ　アプルミント

２０１２年１２月８日

１２月に入っての我が畑庭の光景５つ

１）マンゴーがたくさん開花したことは１１月初めに書いた。それらが実になってきた。実ができることは、この時期によくあることだが、何百もつけてしまった。例年、この時期のものは、通常の収穫のようには大きくならない。

でも、いくつか食べられるくらいにならないかな、と実験モードで残しておくことにしよう。

２）芽を出してきたパパイヤ。コンポスト堆肥に野菜クズを混ぜると、よく出てくる。そして、なかには立派に

なるものもある。これも期待して放置することにしよう。家庭菜園ならではの物語だろう。

３）ボルトジンユが一杯でてきた。台風で痛めつけられた茎から、新しい芽が一杯出てきて、大きくなってきた。薬草はこんな風に逞しい。ボルトジンユは高血圧にいいという話をよく聞く。匂いはきついが、花はそこそこに美しい。

４）今頃になって、ウリズンマメが大きくなり始める。だが、寒くなってきており、食材になるほどになるだろうか。心配しつつ期待する。

５）この２ケ月の気候が大好きなのか、アップルミントが大繁殖。一面のアップルミントといった感じ。なかにはクールミントやヨモギ（フーチバー）も混ざっているが。上右写真

苗植え・種蒔き　このごろの畑作業

２０１２年１０月２７日

台風被害整理作業はほぼ終えた。コンポスト投入順番待ちで処理しきれない落葉はかためておいたままだが。

今は、秋の苗植え・種蒔きのシーズンだ。もう台風はこないだろう。

畑には、レタスの仲間、ミニトマト、ネギ、ニンニクなどの苗を植える。

苗の周りには、シマナ、しゅんぎく等の種もまく。私流の混植だ。

イタリアンパセリ、セロリ、パセリなどの苗も植える。

ルッコラ、コリアンダー、レモンバウム、セントジョンズワートなど、台風被害で消滅したハーブの種もまく。

ローズマリー、クリーピングタイム、オーデコロンミント、ホーリーバジルなどの苗も植える。

久々にフロレンス・フェンネルの苗も植えた。右写真。

季節替わりの我が畑　秋に向けての作業スタート　　２０１２年１０月３日

このところ、涼しさを感じるようになった。畑作業も、暑さ・汗との格闘といった感じは少なくなった。蚊との格闘は、まだまだ続くが。

我が敷地の最高樹木のチシャノキが開花した。１年に何回か開花するが、地味だけど、しばし眺めていると美しさを感じる。

チシャノキの落ち葉で埋まった畑から、少し落ち葉を取り除くと、ラッキョウの新芽が見えてくる。（左写真）

私の畑は、不耕起なので、落ち葉などを取り除いたところに、苗を植え、種をまく。写真は、ネギの苗を植えた後、ルッコラの種をまく。そして、上に落ち葉を少しかぶせておく。混植なのだ。どうなるかは、自然のみが知る、という気楽な農法。だ

遅まきながら、ウリズン豆が毎日のように収穫できるようになった。

―――以上は、台風襲来前に下書きしたもの。

台風後、チシャノキの花は落ち、枝先の葉は茶色になってしまった。

ウリズンマメは、収穫直前のさやも含め、壊滅に近い。だが、不死鳥のように蘇ってくれるだろう、と期待している。そんななか、モーイ３本を収穫。

植えた苗・種の上には、たくさんの落ち葉。保護してくれたような感じだ。

畑の台風の後片付けは始めたところで、今週いっぱい必要だろう。

庭の通路に敷石と玉砂利を敷く

２０１２年８月２日

庭の周りで通路になっているところの状態がよくない。芝を植えていたが、長雨続きなど悪条件が重なって、芳しい状態ではないのだ。

金をかけない庭づくりが信条であったが、思い切って敷石を並べることにした。花崗岩の丸いものだ。そして、通路にそってタマリュウを植える。これは我が家のものの移植で十分間に合う。タマリュウと敷石の間は、五色玉砂利を敷く。

６月から作業を開始して、少しずつ進めている。敷石も玉砂利も結構な重量なので、自家用車で一度に運べるものではない。これまで、４回やったが、今後も数回必要だ。

だから、写真は、作業中のものだ。芝は強力なので。玉砂利の間から、すぐに顔を出す。

この作業は、すべて私の手作業だ。これが楽しみでもある。目下、材料費で１万円余りかかった。庭の通路はここだけでない。今後どうなっていくか、どうしていくか、状況次第だ。

沖縄産の珊瑚石灰岩も検討したが、値段が高い。

上２枚の写真は、建物３階から写した。

左は、地面の横から写した。

気楽な私流農法　混植

２０１１年１２月５日

木々が大きくなり、種をまいたり、苗を植えたりする畑面積が激減しているが、それでも、わずかばかり種をまくこともしている。

2，3 年前の一時期、粘土団子方式の種蒔きをしていたが、いまではやっていない。

今は、多くの場合、2～4 種類ほどの「混植」だ。それも丁寧に種床をつくるとか、苗にまでさせて移植定植したりなどはしていない。

自称浅野式「自然農法」で、テーゲーにやっている。たとえば、こんな風である。

１）もう３～４年不耕起栽培なので、耕さない。

２）草とりもいい加減にして、根から引き抜くことはしていない。

それでも、種がまけるように、土の上に「派手に」出ている草類は取る。

３）バケツのなかに、野菜用の土、堆肥、砂などを混ぜ、そこに 2～4 種類の種を入れてかき混ぜる。

４）それらを、適宜まく

５）上から、少々の野菜用の土、堆肥、砂などをまく

６）少々の水やり

いたって簡単なので、短時間で終わる。

その後、1 週間ぐらいは、乾きそうな時に、水やりをする。

７）間引きをすることもあるが、たいていは収穫を兼ねながらの間引きだ。

数種類まくと、たいていは、成長速度が異なるので、収穫時期もずれる。

なんともまあ、いい加減で｢楽｣な「農法」だ。

現在進行中のもの。

しまな、わさびな、こまつな、しゅんぎく、サラダ菜など

岩に育つタイム・ハママーチ・長命草

２０１１年１１月１７日

写真のように、我が畑の南端に大きな岩がある。高さ１～

２メートル、岩の上の平らなところは１メートル×２メートル位の広さだ。

そこに少しずつの窪みがあり、土もある。そんなところに、ハーブや薬草をいろいろと植えてみた。

元気よく定着しているのは、タイムと写真のようにハママーチである。

岩の横には、たくさんの小さな穴がある。ハブのすみかにならないように土を埋めながら、植物を植えた。そのなかで一番定着したのは、長命草だ。今は開花の時期で、連載写真で紹介しているように、たくさんのイシガケチョウ、リュウキュウミスジが蜜を吸っている。

岩の手前から撮った写真には、手前からタイム、ハママーチ、長命草が写っている。

いまだに大量の蚊に苦戦する畑作業　　２０１１年１１月１３日

９日の大雨。国道 331 号線が、我が家から３００メートル地点で、土砂崩れによる一時通行止めになり、マスコミも報道した。我が畑も、畑の真ん中に水路ができてしまい、植えたばかりの苗２本が流された。

季節が変わったので、これからの季節向けの種苗を植え付け作業が色々とした。

下左写真は、芽を出してきた葉野菜類。不耕起のまま種をまくので、雑草と混ざっている。そして、2～3種類混植する。

収穫は、依然として、ウリズン豆＝リュウキュウシカクマメが、毎日 20 個以上続く。気温が下がらないし、雨が多いためだろう。他には、同じく依然としてモロヘイヤなどである。

下右写真の手前がウリズン豆。後ろには、月桃、クロキ、バンシルーなどが写っている。

例年と違って、今年は蚊が勢いを止めずに、大量に飛ぶ。夏場、例年以上に多かったが、今でも、その数は変わらない。しかも、戦闘的だ。ズボンの上からも、防護のために着ている虫よけの網目服の上からも刺してくる。だから、素肌を全く出さない防護体制で作業しても、10 個所以上は刺されている。

例年、この時期に激減して、防護体制を終えていくが、今年は 12 月まで続きそうだ。

梅雨から本格的夏にむけての畑作業

２０１１年５月２０日

このところの雨続きで、畑の様相が一変した。葉野菜は、ほとんどが水腐れ状態。これまで盛んに収穫してきたミニトマトも、少なくなってきた。

現在、収穫が多いが、まもなく終了するのは、ペピーノ、セロリ、ラッキョウ。

ペピーノは、５０個余りの収穫予定で、半分が収穫済み。

ラッキョウは、生で食べているが、太り始めると味がおちるので、まもなく収穫終了となる。2 月から少しずつ楽しんできた。６月末には掘り上げ、７月に来年に向けて植える。

すでに収穫しているが、これから秋まで収穫を楽しめるのは、
ハンダマ、三つ葉、ニラ、ツルムラサキ

我が畑で定着しており、多年草化、あるいはこぼれ種から大きくなってくる。

こぼれ種からふえるモロヘイヤは、これから出てくるだろう。もしかすると、かぼちゃかトーガンができそうな気配がある。

7，8 月の収穫に向けて準備中のものは、

オクラ、シカクマメ、ハヤトウリ、ナス、ピーマン、二十日ネギなどだ。

我が畑のナスやピーマンは、長いものでは、１年以上になっている。収穫時期もテーゲーだ。私の畑作業と同じだ。

それにしても、大変な雨続きで、畑に出られる時間が短くて、欲求不満の日々だ。出ると、大量の蚊が集まってくるので、蚊よけのための全面装備だ。写真撮影で１分間だけ軍手を取るだけで、手の甲が１，２発刺される。

沖縄での自然農法・有機農業関連書籍

２０１１年５月１８日

自然農法、有機農業関係の本は、大変多い。このブログでも何冊か紹介してきた。
それらは、農法による特徴が色々ある。そして、その農法の良さを強調するのが普通だ。なかには、その農法が絶対的によい、というトーンのものもある。他の農法に攻撃的なものも見かけないではない。そこまで行かなくても、その農法の宣伝的なものが多い。
だから、どの農法のどういうところを参照するかは、読者に任される。
私などは、あまり宣伝的なものは「いやな」感じを受けてしまう。いい農法なのだが、そこまで自己宣伝されると、「いやだなあ」と思ってしまうのだ。

大半のこれらの書物は、本州を基準にしている。亜熱帯で、しかも我が畑のように、アルカリ性土壌だと、「翻訳」作業が必要だ。沖縄式の本が出てもいい、とは思うが、滅多に見かけない。
先日、石川勇・玉城朋彦編「沖縄の有機農業２０１０－農と環境の現場報告」（メディア・エクスプレス 2010 年）という本を書店で見て、読んだ。沖縄の有機農法の概況、沖縄なりの農法の工夫を知りたいとおもったからだ。
この書籍は、有機農法の一つでもある EM 紹介・推奨が中心となるもので、それらの動向を知るうえで有用なものだ。
微生物が有用であることは、昔から堆肥使用などで知られていたことだ。それらのなかの特定のものを取りだして、有用微生物群（英語 Effective Microorganisms の頭文字で EM）として普及されたものが、いわゆる EM だ。別の有用微生物を別の商品名で普及させているところもある。だから、普通名詞としての有用微生物と、特定の開発物で、固有名詞としての EM の場合とは、一応の区別が必要で、固有名詞の場合は、有用微生物のなかのどのようなものを含んで、どのような特性をもつかを、示される必要があろう。
使用する人は、それらの有用微生物を自分なりの判断で選択使用することになろう。

万能のものというのは、それほどあるものではない。歴史が積み重ねてきた色々な知恵をもとに工夫をさらに積み重ねていく必要があろう。ただ、ここ数十年間、あまりにも農薬や化学肥料に依存し過ぎて、かえって難問を生み出したことは確かだろう。それらから、いかに卒業していくか、という課題もある。
さらに、遺伝子操作をはじめとする問題、また市場を軸に回り過ぎるために、泥のついた作物、曲がった作物が嫌われると言った問題に、どう対処するのか、というのは、農業関係者だけでなく、人々の生き方のありようにもからむことだ。

最近の畑作業と、鏡山悦子「自然農・栽培の手引き」　　２０１１年４月３０日

ここしばらく続いた天候不良は、いつまで続くのだろう。寒さと少雨だ。
植物の生育がとても遅いし、弱っているものも多い。生育しているものでも、平均して、半月～１ケ月遅れだ。雨の方は、4 月下旬になってようやくまとまった量が降ってほっとしている。

それでも、季節変わりの時期なので、いろいろな作業がある。
私流の自然農の形が少しずつ作られてきている。色々な書籍を参考した。最近手に入れたものには、川口由一監修鏡山悦子著「自然農・栽培の手引き――いのちの営み、田畑の営み――」（南方新社 2007 年）があ

る。

以前に川口由一さんの本を読んだ時に紹介されたものだが、最近、那覇の書店にも、平積みされていたので、購入した。自然農の本が沖縄にも平積みされるようになったか、とある種の感慨をもった。

私のやり方には参考になる点が多いし、作物別の栽培方法が書かれているので、利用しやすい。

無論、気候や土の点では、条件が著しく異なるので、自分なりの工夫が必要ではある。

このところの畑　コンポストづくり　植えかえ　種苗　　２０１１年3月３０日

まず写真説明　左がコンポスト容器　２ケ月このなかで堆肥をつくる。中央から手前が、コンポスト容器を取ったあとの堆肥　さらに２ケ月寝かせる

四つあるコンポストだが、月に２回の周期で移し替えている。それで畑を順々にめぐっていく。３～４年かけて、畑を一巡していたコンポストだったが、樹木が大きくなって、コンポストをする面積が減り、早晩２～３年で一巡しそうだ。

コンポストを移す際に、ニラやハンダマのような多年草の野菜も移しかえる。苗や種も、それをきっかけに新たに植え播く。

以前のように、一定面積に同じものを植え、収穫し、新たなものを植えるというサイクルではない。空白になった個所に、新しいものを補うという形なので、全くの混植である。耕さないことも、そうしたスタイルを促進している。

今の時期、新しく空いた所には、オクラの苗を植えようとしている。コンポスト後の新しい所には、何かを植えることになるが、そこにはパパイヤなどの新芽が出てきたりすることが多い。その時は、それをそのまま育てる。

我が畑風景　収穫種類が急増　２０１１年3月４日

木々の間に散在する畑を、いろいろな角度から紹介しよう。

現在、収穫中のものは、こんなものだ。

シュンギク、しまな、コマツナ、オキダイナ、アシタバ
レタス、サラダ菜類　５種類ほど
ミニトマト、
二十日ねぎ、ニラ、
ハンダマ、ルッコラ、セロリ、
パセリ、イタリアンパセリ、チャービル、ディル
ほかにいくつか
　ともかく少しずつ。
野菜と同じ扱いのハーブも含まれている。

不耕起だし、種は、ばらまき式。空いた所に苗を植える方式。
自称浅野式自然農法

私流と自然栽培

２０１１年2月９日～２６日

１．「降りてゆく生き方」と「日と水と土」

１月３０日、コンベンションセンターで開かれた、木村秋則講演と映画「降りてゆく生き方」上映に出かけた。会場で、両者と深いかかわりのある本、河名秀郎「日・水・土」（一般社団法人降りてゆく生き方２０１０年）を購入し、読んだ。

私も、家庭菜園のやり方をはじめいくつかのことを考えるきっかけになった。それらについて連載してみよう。

まず、３０日の二回にわたる講演映画。広い会場が満席に近い状態であったことに驚く。こうした問題に関心を持つ人が、沖縄でもかなりの数に上ることを発見した。

講演は、その内容が本の中味と重なるので、次回以降にコメントする。

映画。この企画を知ったきっかけは、玉城のカフェ「黄果報」にポスターが貼ってあり、チラシをいただいたことだ。「降りてゆく生き方」というタイトルに強く魅かれたのだ。

金に任せての開発至上主義・経済競争勝利をめざす生き方から降りるという意味合いが中心の映画だ。私が提示してきたストレーター型生き方から降りるも含めて、多様な人々の多様な「降り方」が多様に示され、かつその中での模索・迷いといったものをイメージしていた私の予想とはやや異なっていた。
それでも、自然と共に生きる姿を含め、ライフスタイルを変える多様な模索が提示されたものであった。

沖縄では、開発とか経済競争とかが、未だ盛んだ。多くの府県以上かもしれない。と同時に、自然との関係、人々相互の関係において、そうでない世界を多分に持っている（残している？）。それに魅せられて、ライフスタイルを変えようと、県外からやってくる人も多い。
こうした複雑なものが同時存在する沖縄で、この映画が投げかけるものは、ピントがややずれる感はありつつも、沖縄独自の関心を生み出し、沖縄独自のものを生み出すきっかけになると思う。

２．無肥料・自然栽培と自然農法

これまで、自然農法の本を何冊も読み、このブログで紹介したことも何回かある。だが、「自然栽培」という言葉は初めてである。「無肥料」ということが大きな違いであり、この「自然栽培」は有機農法に対しても手厳しい評価をする。
それについては、たとえば、次のように書かれている。

「一、土そのものが肥料の塊りであること。
二、肥料を施すことによって、かえって土の力を退化させてしまっていること。
三、種子そのものにも、農薬の薬毒や肥料の肥毒が残存しており、野菜の生態に悪影響を与えていること。
四、土を人間の勝手な思惑で汚してしまったための副作用として、病気や虫がその後始末をしていること」P23

かなりショッキングな提起だ。「土」とは何か、「肥料」とは何か、ということも考える必要がある。
私は、私流、つまり浅野流でやることにしているので、この「自然栽培」からも参考にできることがあれば、参考にしていきたいと思う。
また、自然農法もそうであるが、自然栽培も沖縄気候風土文化のなかでは、まだそれほどの蓄積があるわけではなさそうだ。だから、沖縄式のものの創造も必要なようだ。
以下、気づいたこと考えたことを何回かにわたってラレツ風に書いていこう。

３．地域の味の消滅　日本酒と泡盛

本書「日と水と土」には、こんな記述がある。
「以前、日本酒の利き酒の品評委員が「最近の日本酒は昔と比べて地域による味の差がなくなってきた」というコメントを聞いたことがあります。これも限られた種菌メーカーが酵母菌の純粋培養を行なっているために、日本全国同じような味になってしまっているのでしょう。
野菜でいえば、大根は青首、トマトなら桃太郎といったように全国的に均一になっていることと同じ現象です。私たちは、これらの風潮に危惧を覚えています。なぜなら、
一、その地域特性が失われていく。

二、菌や種子を操作することで自然界に存在しない菌や種子が造られていく。
三、アレルギーや化学物質過敏症の人たちをはじめ、その素材を口にできないという深刻な問題が起きている。」P38

なるほどと思う。
その点では、沖縄は地域独自の味がまだ残っている方だろう。それが一つの魅力になっているともいえる。
ところが、スーパー店頭に並ぶ野菜を見ると、沖縄独自のものより、全国共通のものが多い。特に冬場などは、沖縄独自の野菜は少ない。
それだけではない。泡盛にしても、醸造元の独自性が薄れてきている。私が泡盛を楽しみ始めた一九七〇年代前半は、醸造元の個性が鮮明だった。「クセ」があったのだ。四合瓶をあけて、最初に少量を捨てる人が結構いた。「クセ」がありすぎるのだろう。
そのころ、ほぼ全琉の酒を味わった私は、味で醸造元をほぼ当てることができた。
しかし、八〇年代に入ると、「クセ」、「個性」が薄くなり、当てることが難しくなった。醸造元相互に融通しあう例も増えてきた。マイルドな味、均質な味を目指した酒造りもすすんだ。だから、「個性」が好きな私は、離島の酒、たとえば伊平屋の「照島」などを愛飲した。
泡盛をほぼ卒業した今では、もっと味が分からなくなっている事だろう。

個性的な味、手造り味が増えて行くことを期待したい。そのためには、大量生産型から卒業していくことが求められる。そして、大量生産を推進するような流通システムを変えていく必要があろう。

４．有機農法と糞尿肥料

本書「日と水と土」には、「有機農業も危ない」という節があり、窒素供給のために使われる糞尿肥料の問題性を強く指摘する。有機農法で使われる窒素肥料には糞尿肥料も使われるが、それは硝酸性窒素を含む。それは発ガン性物質であり、糖尿病の原因物質であるという。そして、鹿児島・宮崎・熊本など大規模畜産地域・ビニールハウスなどの大規模農業が盛んな地域には、糖尿病による透析患者が多いと書く。
さらに畜産で使用される添加物・成長促進剤・抗生物質が肥料を通じて作物に入るという。

これらの指摘に、私は初めて出会う。
私の家庭菜園には、牛豚鶏などの糞尿を含む堆肥を購入してきて与えてきたものだから、いささか気になる。無論、私自身が畑で作る堆肥も多いのだが。また、私の場合は、窒素系のためよりもリン系を補うつもりではあるが。
この指摘がまとをついているとしたら、日本の有機農業は、ほぼ全面否定されることになる。
そして、自然農法の本も、私が出会った限りでは、糞尿肥料を否定はしていない。そのあたりが自然農法と、この自然栽培との違いでもありそうだ。

この問題については、私にとって今後考えるべき課題になりそうだ。

５．硬い土の層・我が畑の土・土づくり

木村講演で強い印象を与えた一つは、根が入り込むのを止める、土の中の硬盤層を壊すことが鍵になるという話だ。「日と土と水」によれば、化学肥料や有機肥料の多用は、「肥毒層」をつくるという。そこは硬く低温だという。そこを壊し除去することが必要だとのこと。

硬盤層のことはなるほどと思う。

ところで、我が畑は、「肥毒層」はない。硬盤層はどうかというと、層というよりも、一定の深さ以上はずっと硬盤だ。クチャ＝粘板岩が限りなくあるからだ。我が畑の基盤には、このクチャ、その上に、数十年前に畑であったこともあってできた、また森の樹木が作ったジャーガルがある。建物建築の基礎工事をした際にわかったが、ジャーガル層は厚くない。すぐにクチャ層になる。ジャーガル層なしにクチャ層むき出しのところさえある。また、工事後の埋め戻しには、岩石入りの島尻マージが使われ、建物近くはそうなっている。

だから、畑・庭にするためには、クチャ層、島尻マージを「土」にしていかなくてはならない。それをしないで、「土」なし状態で植えた芝生は、元気がなく、今では消失しそうだ。

この６年間で、畑全体に木の枝葉を入れ込む作業がほぼ一巡した。現在、「土」層が、20 センチ余りになっただろうか。ようやく野菜などの収穫がまあまあ状態になった。

そして、不耕起式にしてから 2 年ほどたつ。

土について、「日と土と水」書に、次のような記述がある。

「耕作している土を一センチ作るのに一〇〇年～一五〇年かかるといわれています。だいたい耕作に必要な土の深さは三十センチといわれていますから、その三十倍の年月がかかって初めて作物を作れる土になることができます。

土ができているからこそ、山々は絶えることなく永続的に繁茂し、生命を繋ぐことができます。そこには病害虫は確かにいるのでしょうが、バランスが取れています。ですから丸裸になっている山々は存在しません。腐っていて異臭を放つ山もありません。」　Ｐ９５

木の枝葉、ススキやサンニンや雑草などを、土の中に入れることを中心にした「私流堆肥づくり」、というこの６年間の作業の一つは、この作業だったのだな、と思う。

「日と土と水」書の次の記述も、このことに関係がある。

「実際に農家は土ができるまでの一〇〇年間を、ただひたすらじっと待っているわけにはいきません。耕したり、堆肥を入れるなどの技術を用いることで、一〇〇年で一センチしかできない土の進化を早め、促進します。

昔から土を作ることが農家の仕事でした。それが本来の姿であるにも関わらず、いつしか肥料を入れること一辺倒になってしまいました。そうなったが故に自然観が狂ってしまったのです。

生物のいない土から生物のいる土への変化し、石に日光や湿りという条件が加わり、苔が生え、そして長い年月をかけて土ができ、それにより更なる植物の進化が促進されました。

日本の山林では年間一ヘクタール当たり六～七トンの草や木、葉が朽ちて循環しています。こうした枝や葉に肥料成分があるのかといえばほとんどない。

つまり枝や葉などが地面に落ちることと肥料とでは、まったく違うこと。似て非なるものを意味しているのです。

では何のためかといえば、土を作っているのです。肥料ではないのです。ここはちょっと難しいかもしれ

ませんが、肥料と植物の循環とはまったく違います。枝や葉などは土を柔らかく、温かくするためにあります。」Ｐ９９～１００

大変興味深い記述で、参考になる。ただ、土が肥料でないとしても、栄養分は多少あると思うのだがいかがだろうか。

６．ミミズ・雑草・堆肥・土

「日と土と水」には、こんなことが書かれている。

「よく“ミミズがいるのが良い土だ”と思い込んでいる人が多いのですが、私たちはミミズがいるうちはまだまだ土ができていないと考えています。ミミズがいなくなった土こそ本物です。ミミズがいて良かったね、このレベルで止まっているのが有機農業です。

でもそうではなく、ミミズがいない土に進化することが重要です。ミミズがいるのは、それだけ分解が必要なものが多いという証です。あるからこそいるので、コガネムシも他の虫も、たくさんいるのです。すべてを純粋化する、だからミミズがいるうちはまだまだというわけです。

最初に触れましたが、高橋博さんの畑にはミミズはいません。雑草も生えていません。先ほど堆肥の話をしましたが、草が生える意味は土にもっと進化してもらいたい、こうした自然界の意志の表れでもあるのです。

たくさんの草を生やすことで、土を作ろうとしています。高橋さんの畑の土は柔らかく、温かく、本当に素晴らしい土です。」Ｐ８７

ミミズの話は初めて出会う。私にはまだ判断がつかない。わかるような気もするが、「雑草も生えていません」となると、信じがたい。自然界では、いろいろな種が散らばっている。それらも芽を出さず、農作物だけが芽を出すとしたら不自然だろう。さらに、次の記述も注目される。

「土そのものが本来、肥料の塊です。ですから土が生きて働くことが一番合理的である、このことに気づく必要があります。

土を正常純粋化するために溜まっている汚れをとにかく排除して、新たに不純物を入れないようにしよう、これ以外に手立てがないのです。基本技術とすると、とにかく肥毒層を取り払い、そのエネルギーを滞りなく循環させること、具体的に言えば山の土のようなものにすることがこの栽培の基本条件となるのです。」Ｐ１０９

「土そのものが本来、肥料の塊です」といわれると、たとえば次のような文との整合性から言って、不自然さを感じる。といっても、次の文は私にとって示唆に富む。

「無肥料・自然栽培では枯れ葉や枯れ草などを堆肥として使うことがあります。それは肥料じゃないの？と思われるかもしれませんが、違います。

使う理由は、土を固めない、土を温める、土を乾かさない、こうした目的で使います。堆肥で使う枯れ葉や枯れ草には肥料成分、窒素はほとんどありません。

大きく早く育てるものではありません。そこが誤解しやすいところなのですが、枯れ葉や枯れ草は肥料ではありません。この点を明確に認識する必要があります。

しかし土の状態がよくなっていれば、堆肥も使う必要はもちろんありません。その都度、土の状況を見て判断しなければなりません。土が固まっている状態の場合は、堆肥を使います。

ただそのときの原則は、必ず枯れてから入れます。よく青いまま入れてしまう人がいますが、農家の畑でも家庭園芸でも摘んだ草をそのまま上に入れてしまえば、すぐに虫や病気が発生します。

自然界では絶対に青いまま、生の状態では土に入らないからです。誰かかが入れない限り、青いまま土に入り込むことはありません。

青い草は中に入れず、土の上に置きます。そうすると虫も来ないし、枯れてやがて土に分解されていきます。これが堆肥を使う際の原則です。

堆肥を肥料と考えてしまうと、窒素供給のために何トンという量が必要になってしまいます。これが有機農業の失敗だったと思います。」Ｐ１１２～３

ここで書かれている「必ず枯れてから入れます」については、私も参考にしたい。

７．果樹の剪定　自然の流れと人間のやり方

次の記述も注目したいと同時に、考えたい問題が含まれている。

「本来りんごは紅葉する落葉樹ですから、秋から冬にかけては葉がハラハラと落ちてくるのが自然です。

でも現在のりんごの樹は緑が青々とし、たくさんの実を抱えている。これは明らかに不自然といわねばなりません。周囲の山々は紅葉し、色づきやがて葉を落とし冬支度を迎える。それなのに、りんごの木だけが青々としている。

それは肥料とか農薬とか人がいろんなものを浴びせかけた結果、りんごの生態が狂ってしまっているのです。人間の都合でまだまだ彼らを眠らせようとしない光景といえます。

本来なら冬にかけて、りんごの樹は眠りに向けて体力を養う頃であるはずです。ところが「そうさせないぞ」という人間のしたたかさがこの姿に表れています。

また、たくさんの実をつけさせようとするために枝が下を向いてしまう。これは「Ｙ化」とよばれる現象です。本来なら枝が上に伸びるように剪定し、過度の実をつけさせないようにするのが農業者の役割のはず。

でも、よりたくさん収穫するために実の重さで枝がしなって下を向いてしまう。こうなると収穫しやすい。実がたくさんとれて、しかも収穫が楽になる。

一挙両得というわけです。本来りんごは上を向いて伸びるものであるはずなのに、下を向かされてしまう。」Ｐ１０２～３

我が家には、金煌マンゴーがあり、前所有者から受け継いだ。樹齢ははっきりしないが、１０～２０年ぐらいだろう。なかなか迫力があり、美しくもある。我が家の主木にしようと、剪定をほとんどせずに伸ばした結果、昨夏には５メートルを超えた。マンゴーの原産地では、２０～３０メートルクラスのものがあるという。近所の農家の皆さんは口をそろえて「剪定しなさい」とアドバイスなさったが、しないままきた。

この我が家のマンゴーが３年前から実をつけ、一昨年は３００個も結実した。見かけは商品にでてくるものに「見劣り」するが、味はむしろいい。昨年は、隔年現象のためか、３０個余りだった。高い所にあるものは、普通の方法では取れなくなった。それで、収穫と剪定を兼ねて、枝を何本か切って収穫した。

私も年を取ってきているので、３～４メートルも登って収穫するのは危険だ。そこで、５メートル以下に

おさえるつもりでいる。
　現在の私の考えは、ここに書かれている事と相反する。私自身がもっていたジレンマとこの叙述がハモるのだ。

　ひるがえって考えてみると、この金煌マンゴーは、台湾の農家が品種改良したものだ。リンゴにしても、品種改良したものだ。戦後間もないころのリンゴに比べると、現在のりんごは巨大化している。カナダで、かつては栽培用だったが、放棄されて「野生化」したリンゴなどに出会ったことがあるが、温州ミカンほどで、人間の食用にはなりにくいものだった。
　そう考えると、人間が栽培し、商品として流通している果樹のほとんどが、品種改良されたものだ。そうしたものを自然の流れに沿うように栽培しようといっても、なぜか不自然さを感じてしまう。「できるだけ自然の流れに近いやり方」で、と努力するしかない。考えてみれば、農業自体が、人間が「自然の流れ」とは異なるありようとして始めたものなのだ。だから「自然栽培」「自然農法」という用語さえ不自然なのだ。そのことを自覚する必要があろう。
　だから、「できるだけ自然に近い形で」とか、「自然に近づける方向で」とか、「ここまでは人間が加工したやり方を許容するが、化学肥料・化学薬品の使用まではしない」とか、何らかの区切りをつけて、「自然ではない」やり方をするしかないのが現実だろう。だから、いろいろな自然農法より自然栽培のほうが「自然」だとは単純には言えない。自然農法も実に多岐にわたり、本書にでてくる「自然栽培」よりもより「自然」に近いと感じるものもある。

　ということで、私も、私なりの方法で、いくつかの自然農法、本書にあるような自然栽培、そして沖縄の在来農法に学びつつ、「私流」でやっている。

８．種　自然生え

　今回は種の話。私がやっていることと近いので、私流もけっこう行われているのだ、と意を強くする。

　「それぞれの農家がタネも買うのではなく自分で採る、こうした自主性を取り戻して、自分自身のブランドを作っていく、そして種子を自然に戻す努力によって、肥料がなくても作れるようにする、今の種子はあまりにも行き過ぎた品種改良になってしまっています。
　それを自然に戻していく、そうすると柿やイチジクのように、種子に原種の力が戻ってきます。肥料を入れなくても育つような遺伝子をタネが思い出します。
　そうして植物自体を戻していってあげる、種子と土を清浄化し、エネルギーを滞ることなく循環させていくことが無肥料・自然栽培です。」Ｐ１２６～７

「「自然生え」という種子採り法があります。生ごみの中からタネから芽が伸びているシーンをよく見かけたこともあるかもしれません。
　畑の隅で何にもしていないのに芽を出している作物もあります。そのことを応用したのが「自然生え」という種採り方法です。
　それは植物によって向き・不向きがありますが、トマトやナスなどの実を土に直接植えてしまいます。
　そのまま放置し、その環境で根を張り、自然に芽を出すタネを繋いでいきます。つまりその土で生き残ることができるタネを繋いでいく方法です。　（中略）

この作業を五年くらい繰り返していくと素晴らしい作物ができるようになります。その土の情報をタネが読み込み、肥料がなくともきちんと育つ、そうした種子が採れるようになっていきます。

これは家庭菜園でも同じです。そうやって時間かけて種子を自然に戻していく。すると病気や虫にやられにくい種子になっていきます。買ってきた種子は、どうしても虫・病気ってしまうのです。」（原文のママ）Ｐ１３０～１

「自然生え」という言い方は、初めて知った。生ゴミから芽が出てくるのは、我が畑では、トマト・パパイヤなどがあるが、パパイヤでうまくいくことがある。

生ゴミではなくて、花が咲いてできた種がこぼれて、翌年芽を出すというのは、我が畑では、日常的だ。とくに三つ葉、モロヘイヤ、シマナは、ずっとそうだ。出てきすぎることもよくある。どんどん取るしかしようがない。

我が畑では、多年草も多い。ツルムラは種こぼれもあるし、前年からの継続のものも多い。ほかにはアスパラ、ニラ、ハンダマなどがそうだ。四角豆がうまくいくかどうか、現在実験中だ。

前年の種を取っておいて、翌年植えるのは、オクラなどだ。

前年収穫した根の一部を植え付けるのは、ウコン、ラッキョウなどだ。

ハーブや薬草は、ほとんどが多年草だ。本州では越冬するのが難しいものも、多年草化するものが多い。沖縄ではむしろ夏を越せるかどうかが問題になるものもある。ラベンダーなどがそうだ。特別に手当てすれば、越せるのだろうが、そういうものを無理して沖縄で育てることもないだろう、と思う。土地にあったものが良いに決まっている。

こんな具合だから、我が畑では、種や苗を買ってくることが年々減ってきた。

９．農薬・防虫剤

連載の最後だ。

農薬に限らず化学物質の氾濫に鋭い警告を発する本書だ。

我が畑では、化学的な農薬は使っていない。とはいえ、近隣の畑で使用されているので、飛び散っているかもしれない。以前、行政がサトウキビ対処のため地域一体に農薬を散布していたが、最近はない。

農薬ではないが、防虫効果のために、木酢液は使っている。ヤシが虫に食べられ始めた時、木酢液をかけて退治した。また、ハブ忌避のために、畑のまわりに木酢液を置いている。市販のヘビ忌避剤に木酢液が含まれているから、使ってみた。多分効果はあるのだろう。その後、畑の周りでハブに出会っていない。

本書で認識を改めたのは、化学物質の防虫剤だ。最もポピュラーなものは、パラジクロベンゼンだというので、私が衣服の防虫に使用しているものを調べてみたら、そうだった。

方針転換だ。その代わりに、我が畑で栽培しているハーブを使うことにしよう。最近記事に載せたが、トイレの芳香剤として使用しているセージとベチパーの混合は、防虫にも有効なようだ。

野菜

ニラ　ネギ　ミニトマト　　２０１２年１１月１８日

９月台風後は、平年より気温が低くはあるが、気候がほぼ落ち着き、雨も数日ごとに適量降る、ということで、野菜の植付・成長などには、好都合だ。農作業時間がふえたが、相変わらず蚊は多い。同時に１０匹ほどが集まってくるので、全面装備での作業だ。ズボンを通して刺してくるモサもいる。でも、これは毎年のことで慣れている。

すでに収穫を始めたもの、まもなく始めるものをいくつか紹介しよう。

右上　ニラ　　多年草として育てている。大きくなったら、途中で切り取る。ほっておけば、また収穫できる。

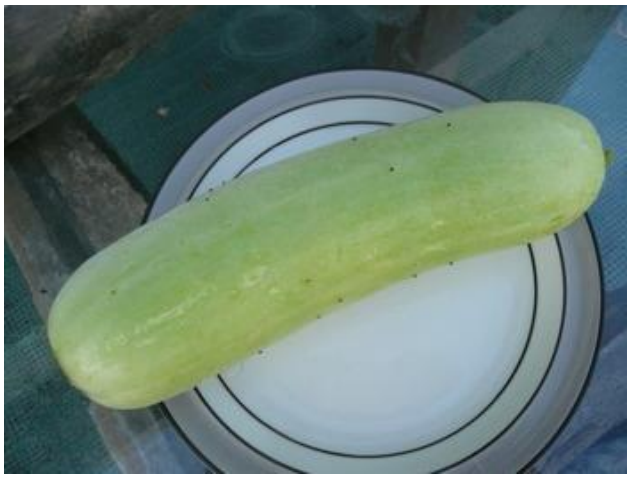
元の苗は、８～９年前に植え付けたもの。３～４年ごとに移植。

中左　ネギ

苗を買ってきて植える。育てるのが簡単な野菜の代表

中右　ミニトマト

今年は、１０月に４本植えた。間もなく収穫１号



モーイ　　２０１２年9月１２日

時々、畑から正体不明のものが出てくる。これまでの経験では、カボチャ、トーガン、キュウリ、モーイなどだ。

今回も、作った堆肥の中から６月はじめに芽が出て、ぐんぐん成長してきたものが何だか分らなかった。

先週、収穫第１号を見つけて、ようやくモーイであることがわかった。堆肥に入れた野菜クズに入っていた種が発芽したのだろう。

早速収穫して、食べる。新鮮だから「うまい」に決まっている。

次の収穫に期待している。

右は、広がったツルと葉っぱ。

ウンチェー（エンサイ）　２０１２年7月２２日

ウンチェー（エンサイ）との付き合いは長い。４０年前に沖縄に来たころからだ。最初は、雑草のようにみえてしまったが、畑を試み始めたころから育ててはいる。素人でも簡単につくれるからだ。

７，８年前、テレビで、川の水に対する浄化機能がすごくあることを報道していた。そこで、数年前、グッピーの水槽で育て始めた。畑でも育ててはいたが、知らぬ間に畑にはなくなり、もっぱら水槽と水甕で育てている。

確かに水浄化作用は強い。グッピー水槽は、よく見かける電気モーターによる浄化器はつけていないが、それなりに水質は悪くない。

写真は、グッピー水槽から育ってきたものだ。

モロヘイヤ　２０１２年7月１２日

モロヘイヤは、前年にこぼれた種から、６～7 月に発芽し、畑のあちこちから出てくる。

それを待っていると、収穫が遅くなるので、今年は、1株だけ苗を購入して５月末に植えた。

現在、種こぼれから出てきたものは、２株発見。多分これから数株は、発見できるだろう。

７月に入ると、収穫開始だ。

まだ少量だが、８月に入ると１日おきに食べる量になり、１０月頃からは過剰になるだろう。11 月に入ると、収穫しきれないのが雑草状況になり、種がどんどん生まれていく。こうして１２月に至り、今年のサイクルに区切りがつく。

アスパラガス　　２０１２年6月２１日

数年前から始めた。少しずつだけど、一応収穫している。

昨年、植えかえたので、一年は収穫休憩だ。

上の写真は、茎葉を伸ばしている。茎とか枝とかのように見えるが、細かい葉が一杯なのだ。

下の写真は、その中から伸びてきている新芽。収穫して食べられるものだが、今は、基礎体力をつけるために、茎や葉をうんとのばしてもらおう。収穫は、生育がもっと盛んになってからにしよう、と思う。

現在、５株あるので、８月ころからは収穫ができるだろう。

自宅製の高級野菜が食べられる贅沢を実感できる。

最近では、苗店でよく見かける。その年にも収穫できるようなものは、苗の価格が驚くほど高い。通常の苗を収穫できるまでに育てるには、私のような素人は２年以上かかる。のんびりやることが大切だ。

なた豆　　２０１２年6月１７日

我が畑では、今年が初めての挑戦だ。どこかで、話題は聞いていた。

偶然、苗店で４月初めに苗を見つけたので、畑に植え付けた。

といっても、育て方が分からないので、インターネットで情報を探した。

簡単なようだ。「肥料の与えすぎに注意」とある。支柱をたてよ、とのこと。

これは、おおよそ自然の流れに任せがちな私向きのようだ。

５月下旬には開花が始まり、数日後には、収穫可能になる。といっても、まだ数個。日照不足のためか、今のところ、ゆっくりとした成長だ。

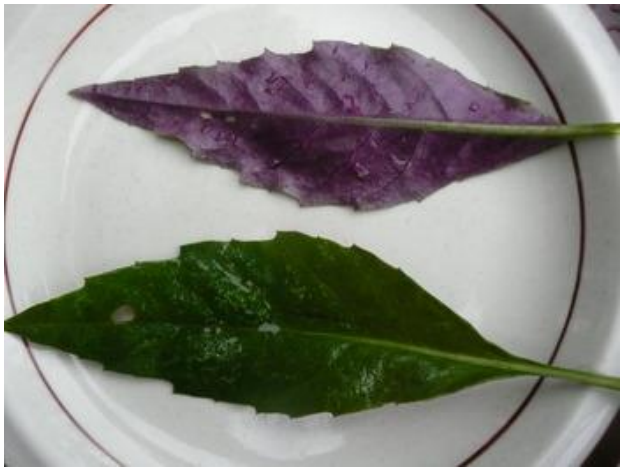
先日、別の店で苗を売っているのを見つけ、もう一本植える。

今のところ、ゆでて食べている。もう少し、収穫経験を積まないと、今後どうなるかは、なんともいえない。薬草にもなるそうだが、まだよくはわからない。

はんだま=すいぜんじな

２０１２年６月７日

沖縄野菜の代表的なものの一つ。それにしては、お店で売っているのを見かけるのは少ない。もっと活用さ



れてよい。上の写真は収穫直後なので、枝葉が少なくなっている。

育て方は、いたって簡単。挿し枝をするだけ。ほとんどが定着し、多年草化する。

今我が畑には、５～6 本が育っている。それで、週に２～３回、食材に使える。もう少し殖やすために、最近、数本挿し枝をした。

宮古ではパルダマという。

葉野菜として、汁に入れたり、チャンプルーにしたり、サラダにも使える。

私のお薦め品だ。

カンダバー（さつまいもの葉）２０１２年６月３日

カンダバーとは、さつまいもの葉っぱのこと。

沖縄生活を始めたころ、カンダバーも食べることを知って驚きつつも、数回ぐらいは食べただろう。でも、常食したわけではない。

しかし、2，3年前、食材用に柔らかいカンダバーの苗がつくられたことが報じられた。そして昨年、苗店でその苗を売っていたので、我が畑に植えて見た。昨年末からチャンプルーなどに使ってみる。本当に柔らかい。味も悪くない。ということで、日常的に使用する野菜になった。

栽培は、文句なしに簡単。茎を挿しておくだけで、100%生育する。ということで、畑のあちこちに植えた。とくに畑として使いにくい場所に植えた。

伸びてきたものを収穫する。葉っぱだけを取って、洗う。柔らかいから、茎も使えるかもしれないが。

虫さんが、葉っぱに穴をあけている。美味しい証拠だ。無農薬である証拠でもある。繁殖力旺盛だから、虫が多少食べようと、関係ない。

ツルムラサキ（ツルムラ）　２０１２年5月３０日

最初に植えたのは、ここに住み始めて間もないころだから、７年余りになろう。苗からか種からかも忘れた。

それ以来、多少の移植はしたが、ほとんど自然生えで育てている。育てていると言っても、自然の流れに沿うのがほとんどで、ツルが這っていけるように手助けするぐらいだ。

梅雨時の今頃が生育盛んだ。

汁に入れたり、おひたしにしたりする。消費に追いつかない収穫量だ。

似た種類で、雲南百薬があるが、うまく育てきれないでいる。ツルムラも薬用効果があるらしい。だいたい、自然生えスタイルで元気なのは、薬用効果があるようだ。元気なものは人間も元気にさせる。

ミツバ　２０１２年5月２７日

数年前に播いた種から育て収穫したが、その後、多年草化しただけでなく、こぼれた種があちこちに飛び散り、畑のあちこちから育っている。飛ぶ種なので、思わぬところから育ってくることも多い。

結果的に周年収穫しているが、5月ごろからは溢れて、毎日「食攻め」状態になる。

こんなに強いものなのに、スーパーなどでは、不思議なことに高値だ。

右上写真は、花をズームアップして撮影。

リュウキュウアシタバ（インドヨモギナ）

２０１２年5月２０日

数年前、我が家の訪問客の方にいただいた苗が、繁殖して、いまや畑のあちこちで元気よく育つ。

アシタバは、苗店で購入した苗を何度か植えたが、いずれも失敗。このリュウキュウアシタバと対照的。

ところが、リュウキュウアシタバはどんなものか、インターネットで調べるも、情報がえられない。

最近になって、大里のＡコープ「アトール」で販売されているのを発見。実はそこで、リュウキュウアシタバ（インドヨモギナ）という名前を知った。この名前でインターネット検索するが、またもや情報をえられず。出てくるのは、「情報がえられず困っている」という私の記事ばかり。

左写真は栽培中のもの　　右は収穫したもの

オヒタシにするか、汁物に使っている。　健康野菜という雰囲気。

シマラッキョウ

２０１２年5月１７日

シマラッキョウを生で食べるのが流行になってから、まだ日は浅いが、ごく普通になってきた。私も我が畑で育てるようになったここ数年、3~5 月は常食するようになった。

前年育ったものを 7 月に掘り上げ葉っぱを切って、そんなに間をおかずに、１つずつ植え直すことにしている。

１０月頃から、葉っぱを出し始め、1 月頃からは茂り始める。

成長がよいものは、2 月頃から収穫できる。根元を食べるが、根元が太ってくる 5 月からは、生食向きではなくなり始める。6 月に入ると、もう生食向きはなくなり、どんどん太らせて、来年の苗にする。

掘り上げたものを、食べられるようにするには、一本一本作業しなければならないので、結構面倒だ。

かくして、御馳走になる。

セロリ

２０１２年5月１４日

昨年 10 月に購入した苗 3 株を植えた。肥料はほぼゼロで、堆肥を混ぜた土に植えた。２月ごろから、一番外の葉から順番に取って収穫。６月初めまで収穫できると思う。

５月になると、収穫が我が家の需要を上回り、常時食卓に坐るほどになる。一般家庭では、2 株で十分と思う。　自然栽培なので小ぶりだが、味が凝縮して美味しいと、自分では思う。歯ごたえもしっかりしている。

わさび菜　　２０１１年１２月２５日

右上写真　　わさび菜。種をまいた。2 年ほど前にも作った。ワサビのような味がする。1 月中旬からの収穫予定。

ルッコラ　シュンギク　レタス類　セントジョンズワート　２０１１年１２月２４日

いくら天候不良とはいっても、11 月に播種、植え付けしたものが成長してきている。

まずルッコラ（ロケット）とシュンギクの混植　　1 月後半には、収穫できるだろう。中左写真

もう一つ、名前を忘れたがレタスの仲間と、ハーブのセントジョンズワートとの混植。レタスの仲間の方は、1 月後半の収穫予定。セントジョンズワートは、多年草なので、ずっと収穫し続けられればと願う。別のところにはすでにあるので、合わせて常時供給できればと願う。

中右写真

ウリズンマメ=リュウキュウシカクマメの大収穫

２０１１年１０月９日

９月中旬から収穫がはじまったが、このところ、一日あたり数十個の収穫。

来客に差し上げたり、他府県在住の方に送ったりしている。

台風で、随分やられて、今年は駄目かと思っていたのが、嘘のようだ。

しまな＝からしな　２０１１年7月１２日

夏は、自然に出てくるものが多い。しまなも、前年の種がこぼれて、今時から、思わぬところから出てくる。
他の草たちと同居である。　上右写真
こういうのは、他にモロヘイヤとツルムラサキがある。

サトイモ　台風後の回復　２０１１年6月１４日

畑のなかの数か所にサトイモの葉っぱが顔を出している。

2, 3 年目に、種イモを買ってきて植えたが、うまくいかなくて、あきらめていた。収穫する大きさにならなかったイモを、畑の隅とか、堆肥のなかに「捨てていた」。
ところが、ちょっと大きくなっていたものがあったので、今春、改めて植えておいた。
そんなものと、畑の隅に放置したものが、成長し始めたのだ。
イモなので、台風の影響は小さい。それに、4~5 月の雨量の多さが、イモを喜ばせたのだろう。

もしかして、今年は収穫までいきつけるかな、と期待している。

ほぼ全滅の野菜　生き残った野菜

台風１０号　　２０１１年6月４日

我が畑の野菜もほとんど全滅状態。とはいっても、

春野菜が終わる時期で、もともと収穫できる野菜は少ないが。でも、ハンダマ、レタス類の大部分、あしたば、ネギ、ニラなどは、やられた。

その中にあって、生き残った４種
らっきょうは地中にあるから大丈夫
にがなは強い。
三つ葉も強い。
想定外は、キャベツ。いつも虫に食われて、成功したことがないが、潮風で虫もよってこずに、成功したのか。

シカクマメ＝ウリズンマメ　２タイプの発芽

２０１１年5月９日

ここ２年、連続して、大収穫のウリズン豆。

今年は、２タイプの発芽に挑戦。

１つ目、我が畑で収穫したものから採取した種を、参考書通りに、80 度の湯の 1～2 分つけてから、ポットに植えたもの。4 月末に発芽。現在は、もう少し伸びている。

２つ目は、これまた参考書に、昨年伸びたものを根の近くを残してカットしておけば、翌年伸びるとあったので、やってみたもの。
５本あったが、そのうち一本の根元からでてきた。5 月 6 日に発見。

ミニトマトの豊作　　ペピーノの実

２０１１年4月２２日

ミニトマトは、現在毎日１０個余りの収穫
左端の大きいのは、ペピーノ　　これも収穫スタートだ

ミニトマトは、現在４本が収穫中
右写真は、そのうちの１本

島ニンジン？の花　　２０１１年4月１７日

こぼれ種から大きくなってきた。収穫時期を逸したので、そのまま大きくした。
直径２０センチほどの巨大なものになった。下からも次から次へと開花しそうな気配だ。中左写真
写真は真上から撮影
島ニンジンは、チデークニー（黄色の大根）という。

なすの花

２０１１年２月１７日
苗が成長し、開花しはじめた。
右写真。

なすの花もじっと見ると、結構美しい

チマサンチュ　２０１１年1月１８日

右写真
韓国料理でよく使われる。
苗を買ってきた。下から順に取っていけば、2本で３カ月ぐらいまかなえる。

草花・樹木

我が畑庭が森へと育っていく　台風被害からの回復は早い　２０１２年１２月２８日

我が家の周りは樹木だらけで、我が敷地も居住前から樹木が多い。住み始めて８年余り、さらに果樹を中心に樹木苗を追加し、全体で数十から百本近い樹木が育っている。昨年と今年の一連の台風の被害は大きかった。だが、最後の台風襲来後三ケ月がたち回復が進んでいる。途中で折れたティーツリーやクルチなどは、回復に一年以上かかるだろうが、それでも元気良く伸びている。木々に命を感じる。

ここに来たころは、畑庭にぽつんぽつんとあった木々は、高さ１～３メートルぐらいだったが、今では３～５メートルほどになったものが多い。だから、樹木の間に、畑庭があるという感じだ。太陽をたくさん求めるタイプの野菜がかわいそうにも思う。いずれ、半日陰型の野菜しか育たなくなるだろう。

ということで、我が庭畑も、第二ステージに入り、「森付属庭畑」となっていくだろう。この移行作業を１～２年かけてやっていこうと思う。２年後の２０１５年からは、ほぼ完全に「森、付属果樹、付けたり畑」となりそうだ。

では、その森への過程にある樹木たちを紹介していこう。

中左は、建物側から見て、右方向の「森」

中右は、敷地の東南端から見た西南方向の「森」

ニンニクカズラ　ホワイトサポテ

アーティチョーク

２０１２年１１月１２日

最近の畑庭事情だ。台風後の整理が一区切

りつき、新しい仲間を加えた。

一つは、前ページ下左写真のニンニクカズラ。近所に美しい花をつけているので、関心があったが、苗を見つけて購入した、すでに蕾をつけていたので、植え付けてすぐに開花した。将来は、庭と畑の区切りになるように大きくするつもりだ。

前ページ下右写真は、ホワイトサポテ。以前も植え付けたが、場所が悪くて失敗した。こんどこそは、という期待で畑に植え付ける。これでますます野菜畑から果樹園へと変貌していくだろう。

上左はアーティチョーク。これも昨年植えたが、台風のためか失敗した。もう一度挑戦だ。

クミクスチン　チシャノキ　コーヒーの実

台風後、元気な植物　　２０１２年１１月９日

まず、クミクスチン（猫のひげ）。薬草だけあって、強力だ。葉っぱが少しやられたが、一カ月で、もう繁殖状態だ。やがて、美しい花をいっぱいつけるだろう。　　中右写真

このブログにくりかえし登場するチシャノキ。葉が完璧にやられたと思ったら、一週間ほどで葉が出始め、一カ月でもう開花。必死なのだろう。台風でやられても、くりかえし開花だ。だから、今年はもう３～４回開花している。下左写真

おまけの話だが、コーヒー豆の収穫。下右写真

３本植えてあるが、２本は実をつけていて、台風でかなり落とされたが、それでも落ちずにいたものを収穫し始めた。台風では、傾き、枝葉が傷んだが、大きな被害ではなかった。

台風の潮風にやられた我が家の植物　　２０１２年１０月８日

今回の台風は、返し風（ケーシカジ）が強かったことと潮風に植物がやられたことが特徴だ。

海岸の防風林も相当やられた。昨年５月末の台風でかなりやられたのに追い打ちをかけた状態だ。

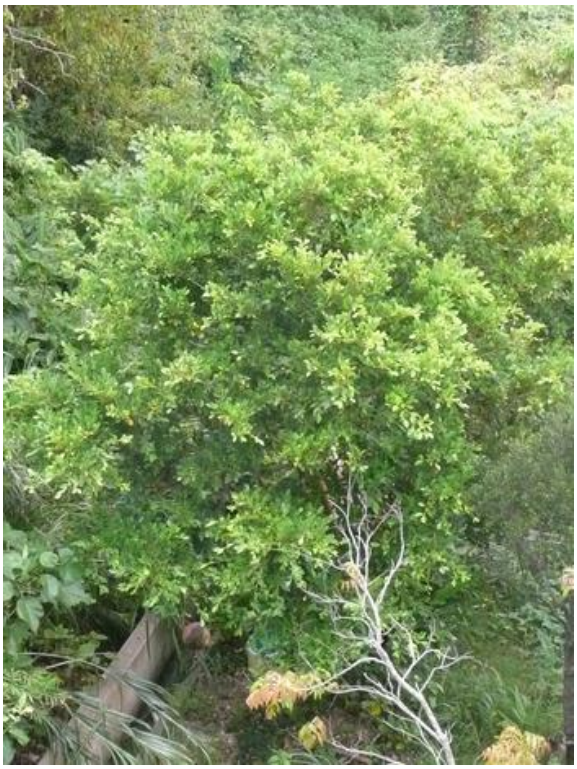
潮風で言うと、近隣ではオクラとサトウキビの惨状が目立つ。オクラは今年の収穫は絶望的な印象さえ受ける。

我が家でも、木々がやられた。

上右写真は、チシャノキ。１０日もすれば、新芽で鮮やかな緑一色になるだろう。

上左は、ブーゲンビリア。緑色の葉は全く見当たらない。これも、中旬には新芽が出てくるだろう、期待する。

下右は、シッサス。これも一見全滅に見えるが、１週間もすれば、新芽がたくさんでてくると期待している。



我が家のガジマル三態　　２０１２年９月２０日

我が家には、３本のガジマルがある。

１）巨木に成長中のもの　中右写真

敷地の南東端近くにあるガジマルは、ここに住み始めたころ、岩肌に数センチまで伸びているのを見つけ、そのまま伸ばしているものだ。それ以前は、ここに高さ数メートルのカシワバゴムノキが育っていた。それは切ってもらったが、幹が直径５０センチもあった。

その赤ちゃんガジマルはすくすく成長し、下の岩を抱きかかえ、高さも５メートルほどになった。隣地に出ていく枝を時々剪定している。

このあたりは、我が家で「聖なる雰囲気」をとても感じるところだ。蚊がいなくなる１１月ごろから、恵美子がここで瞑想をすることもある。

２）玄関の寄せ植え　左写真

隣の畑の主から、引っ越し記念にいただいた。大きくなってきて、一度植えかえた。

寄せ植えだが、ガジマルのほかに、サンセベリア、オリズルラン、ラン（エピデンドラム）、ドラゴンフルーツが「住んでいる」。まさに亜熱帯風の鉢植えというか、「盆栽」もどきだ。鉢底からガジマルの気根が出て、下に１メートル以上垂れさがり、玄関の橋下の地面まで届きそうな気配だ。我が家玄関に陣取っている。

上右写真は、花がはいっている丸いもの。いちじくのようなタイプ。

３）ベランダの鉢植え　上左写真

もう一つは、ベランダの鉢植え。高さが９０センチほど。鉢からはみ出てきたので、植えかえようと準備している。３～４年かけて，丸くカットしようかな、と思案している。

サンセベリア（トラノオ）の花　２０１２年８月２１日

我が庭には、あちこちに大量に生育している。最近、マイナスイオンを出すとかどうとかで、流行しているので、他府県の人が見れば驚くだろう。どこかの都市の街角で、えらく高値で売っているのを見て、私が驚いたくらいだ。

葉を切って挿しておけば、ほぼ確実に半年で大きく生育する。

花壇の縁取りのようにしても使えるが、強力で、コンクリートの割れ目からも伸びてくる。

花もよく咲くが、とても地味だ。それでも拡大すると、花らしく見える。

トレニア・コンカラー　２０１２年８月９日

多年草のものと、１年草のものとがあるとのことだ。我が家

は、種こぼれから出てくる 1 年草が中心だ。毎年、7～8 月から、庭・畑のあちこちに出てくる。

多年草のものを、この春に初めて苗を購入して育ててみた。いずれにしても、強い植物だ。そして、可愛い、というか美しい花を、咲かせてくれる。

多年草のものは、植え付けた５月から咲いているが、いつまで咲き続けるのだろうか。一年草のものは、１２月まで咲き、寒さでダウンする。

サガリバナ=さわふじの開花

２０１２年7月２１日

新聞でも各地の開花が報道されるようになった。我が庭でも７月に入って開花している。 数日前からは、毎晩の開花だ。

左写真は、昼間撮った蕾。

夕方､7 時過ぎから開き始める。朝には､ほとんどが地面に、ふわっと？ぼとっと？　くしゃっと？　落ちている。

４，５年前に購入した苗 2 本。そのころは高さ数十センチだったが、いまでは、３～５メートルにまで成長。まわりの木々を追い抜いている。

我が庭・畑の花たち　２０１２年5月１日

前ページ下

左　コリアンダー　　葉を料理用に収穫するのも終わり、花の観賞に。　ベランダの鉢。

右　コデマリ

上右　オクラレルカ　　3，4 年前、我が家を偶然訪問された方に草花を差し上げたら、お返しにこれをわざわざ届けて下さった。　どこのどなたか記憶に残っていないのが、残念だ。株が驚くほど増えている。

上左　ガザニア

ブーゲンビリア　バジル

２０１２年3月3日

昨年の台風で痛めつけられたブーゲンビリアも、やっとのことで満開に近づいている。いつもと比べると、6 割ぐらいの量の花だが、数百メートル離れた所からも目立つ我が家のシンボルの役割を果たし始めている。

写真では、その横にうつっているマンゴーも、開花を迎えた。こちらは台風の影響が残ることなく、元気だ。昨年は幼い果実が皆とばされたが、今年こそは、と期待している。

中右写真は、バジルの花だ。ちょっと清楚な雰囲気。

メイフラワー　　２０１２年3月１日

メイフラワーの満開が近づいている。

例年より早めか。元気がいい。良すぎて、周りを「制覇」し過ぎるので、どんどん切る。でもどんどん伸びる。一年に数回剪定をする。

ポトス・タマリュウ・オリズルラン・観葉植物が繁茂する中庭

２０１１年１２月２９日

我が家の中庭は、かつては芝を植えていたが、植物が繁茂するにつれて、日当たりが悪くなり、芝の生育には向かなくなった。方針転換して、観葉植物尽くしで行くことにした。転換後 3 年ほどたち、20 種類近くの観葉植物が繁茂する庭になってきた。

降水量が異常に多いことがポトスには幸せだったのだろう。

西半分はポトスの庭といった感じだ。他には、サンセベリア（とらのお)、アロカシア（くわずいも)、アロエ、クロトン、コルディリネ（せんねんぼく)、コリウス、月下美人などが育っている。

中央部分は、タマリュウを地面に植えて、その間に、スパティフィルム、ドラセナなどが育っている。ところどころに見える丸いものは、恵美子が描いたブイアート。

東側には、オリズルランをベースにして、その間に、ソテツ、ペンタス、デュランタ（はりまつり、たいわんれんぎょう）などが育っている。

水槽のハスの花とフウリンブッソウゲ

２０１１年１１月７日

７日昼　近隣のにんにくかずらの美しい花を見ると、夏の花から秋の花へと移る季節を感じさせるが、台風でやられた我が家は、最後の夏を惜しむ花が目立つ。
グッピー水槽の花も台風にやられたが、ハスの花がようやく開花。

庭のフウリンブッソウゲもようやく満開状態だ。

この後、ようやく元気を取り戻してきた我が家の畑・庭を紹介していく機会も増えそうだ。

アサヒカズラ＝ニトベカズラ開花

２０１１年9月３０日

数年前に近隣で出会い、美しい花だと思って、我が家の一階ベランダ下に植えておいた。しかし、条件を悪かったためか成長せず、半ばあきらめていた。
2, 3 日前、恵美子が「ピンクのきれいな花が咲いているけど、何？」というものだから、見ると、なんとアサヒカズラ＝ニトベカズラが、シッサスのツルにそって成長しているではないか。そしてきれいな花だ。
１～２年たって、シッサスとアサヒカズラ＝ニトベカズラとのダブルカーテンが、一階から三階にかけて立派にできることを期待する。

我が家の樹木「目通り」≒幹回り　2011 年版

２０１１年９月７日～１６日

ガジマル一位に

昨年の９月７日の記事に、「我が家の樹木の「目通り」≒幹回りビッグ１０」というのを掲載した。

ちょうど１年たつので、その「２０１１年版」を掲載しよう。

「目通り」というのは、地面より１．２メートルの高さで幹回りのサイズを測るのだ。枝分かれしているのは、幹回りのサイズを合計した数値の７割で算出する。

昨年と比較して、最大ニュースは、ティートリーが、台風のため、地面から数十センチのところで折れて、ゼロになったことだ。昨年は４７センチだった。

第二ニュースは、ガジマルが 101 センチから１２３センチになり、１１３センチから１２２センチとなったチシャノキを追い抜いて一位になったことだ。

では、今回は堂々一位になったガジマルの幹と全景の写真を掲載しよう。

左写真は、上から撮った全景だ。

２位チシャノキ

目通り２位のチシャノキは、それでも１１３センチから１２２センチへと大きくなっている。2 回の台風で、葉が全部落ちたが、回復している。

左写真は全景　高さは、７～８メートルになるだろう。時々、枝を切っているが、そろそろ素人の手に負えるものではなくなりそうだ。

３位金煌マンゴー

第３位は、83センチから９１センチへと成長した金煌マンゴー。台風で実は全部落ちて残念だが、樹木は健在。高さ５メートル。思い切った剪定が必要だ。

左写真は全景。

目通り４位、５位、６位は、ライチ=レイシ３本

８７⇒８９センチ、６４⇒６５センチ、４３⇒４９センチと、着実な成長。

２回の台風で、実は全部落ち、葉もほぼ全部落ちた。回復は緩やかだが、なんとか前進。　来年に期待する。

目通り７位　ブーゲンビリア

昨年は、測定する１．２メートルの高さには１２本の「幹」が枝別れして伸び、目通りは７７センチと算出した。その後、枝を大胆に剪定し、「幹」を７本に整理した。

加えて、２回の台風で大きなダメージを受け、目通りは４６センチと大幅に小さくなった。

写真は、その「幹」たちだ。

目通り６位のはずのティートリーが、枠外へ

今年の最大のニュースは、昨年、４７センチで６位だったティー

トリーの幹が、地面から４０センチぐらいのところで、ばっさり折れた。台風のためだ。

復活できるかどうか心配したが、見事にたくさんの新枝を出してきた。

２，３年で、ベスト１０に復活できることを期待している。

８，９，１０位　クロキ、サワフジ、千年木など

目通り８，９，１０位は、クロキを中心に、サワフジ、千年木、キバナタイワンレンギョウなどで、混戦模様。　　クロキは、太い順に二つを紹介すると、３８⇒４２センチ，３３⇒３６センチだ。

真ん中が一番太いものだ。

他に１０本余り。そのうち一本は、左写真のように、台風でばっさり折れるが目下回復中。この木以外は問題なし。さすが、潮風に強いのは、ガジマル、クロキと言われる通りだ。

他に、目通り３０センチ前後なのは、サワフジ、千年木、キバナタイワンレンギョウなどだが、いずれも台風被害は激しい。でも元気に回復しつつある。

右はサワフジの幹で、左は上からの写真。

他に、幹は太いが、幹の高さが、目通り測定をする１．２メートルに達しない蘇鉄、ヤシ類がいくつかある。

数年中に、３０～５０センチになりそうなものにビワがある。ハイビスカスは大きいが、目通りを測定するといった感じではない。

クワズイモの花と実　　２０１１年８月３日

植えた覚えはないのに、どんどん生育し広がる。
このあたり一帯に自生している。
他府県の植物店で売っているのを見ると不思議な感じがする。
大きくなる。とくに葉は。
赤い実は印象的だが、花は意外に気づきにくい。
実はどんどん大きくなる。

アナナス１輪咲き続ける

２０１１年７月３１日

６月末に咲き始めたが、１ケ月たっても咲き続ける。
花はさらに大きくなったようだ。

グッピー水槽にハスが咲く　　２０１１年７月２６日

２年前だと思うが、水槽にハスを植えたが、今回、初めて開花。　結構なものだ。

夜、閉じていたものが、朝になって開き始め、9～10 時に満開になり、夕方、再び閉じる。

さるすべり開花

２０１１年7月１４日

台風にやられて、新葉は「出直し」になったが、今週に入って開花。

数年前、小さな苗３本を、２００円ぐらいで買ってきて植えた。

順調に大きくなる。現在は高さ１メートルぐらい。

他の一本は、色違いの花を咲かせる。

オオバナアリアケカズラ=アラ

マンダの大量開花

２０１１年7月１日

すさまじく繁殖して、玄関一帯を覆い過ぎていたので、１月に大胆にカットした。８割ぐらい減らした。

１～３月の寒さで、生育が遅れたが、５月にはどんどん伸び始めたと思ったら、例の台風。ほとんどやられた。

６月になって、再び伸び始めた。先週の台風の影響はたいしたことはなかった。　そして、ようやく大量開花にあいなった。

ちなみに、毒をもっている。キョウチクトウ科はそうらしい。「亜熱帯沖縄の花」（アクアコーラル企画２００６年）の著者、屋比久壮実さんに教えられた。

グッピー甕がホテイアオイ甕になった

２０１１年７月１日

玄関脇の甕。

最初は、グッピー向けのつもりだった。本格的な水槽が満員になったので、一部のグッピーを移していた。そこにホテイアオイなどの植物をいれていた。

ところが、水飲にくる鳥が、グッピーを食べてしまう。戸外なので、安心して襲うのだろう。

グッピーを飼うのをあきらめて、「植物の自由」にした。

ほかにも、エンサイ、浮草、スイレンなどを入れていたが、ホテイアオイが一番元気がいい。

毎年この季節になると、ほとんどいつも開花させている。

ジャスミン・マツリカ（ムイクヮ）の大量開花　いい香り

２０１１年６月２８日

我が家の玄関脇のジャスミン・マツリカ（ムイクヮ）が大量開花。初めてだ。

恵美子が、落ちた花を拾って、皿の上に飾った。

あたりにいい香りをまき散らす。無論、ジャスミンティー、つまりさんぴん茶の香だ。

アマリリス

２０１１年６月８日

台風で花がほとんどやられた中で、球根から出てくるアマリリスは強い。

それでも、例年より花が小ぶり。

この種は、開花時期が通常のものより、一カ月遅いが、今年はさらに遅れた。

３年近く前に、東村で買ってきた球根。

シッサスの葉が全部落ちる　　潮風に強い葉、弱い葉　　２０１１年６月３日

写真は、台風前までシッサスの葉っぱがぎっしりあった３階ベランダの手すり。　風によって、シッサスも無残な姿になった。ちぎれた枝は取った。葉は飛んだか、潮風にやられて、いまやゼロ状態。

つる性の枝を整理し直して、地上から３階までの、これまでの形を再現するつもりだ。私の期待は、一～二カ月で、元と同じ状態に戻ることだ。

右下写真は、ブーゲンビリア。これまた葉っぱはゼロ状態。

回復にどれだけ時間がかかるか。いつもなら、４月、８月、12 月と満開となって、我が家のシンボルになるが、今年の８月はちょっと無理な感じがする。

ここで考える。潮風に強い葉、弱い葉。

強い　クロキ、ガジマル、蘇鉄、ポトス、マンゴー

弱い　　ブーゲンビリア、シッサス、レイシ、千年木、はぜ、チシャノキ　ギンネム

この違いは何か　新聞記事の中に、外来種は弱いと書いてあり、「そうかな」と思ったが、我が家の樹木を見ていると、そうでもない。在来の千年木でも、潮風が当たったところは、葉緑素が抜けて、白くなってきている。

私の考え　葉の表面が、「コーティング」されているような感じのものは強い。たとえば、照葉樹と呼ばれるのは強い。観葉植物で、分厚い葉という感じの葉は強い。ひらひらしているのは弱い。

テンニンカ　　２０１１年５月２８日

先週の「かぐや姫訪問」記事に掲載したテンニンカだ。

美しさに惚れて、苗を購入し、鉢に植えた。熱帯果樹の本で見つけたら、予想通り、酸性土を好むようなので、アルカリ性の露地ではなく、鹿沼土を入れた鉢で育てることにした。

すでに着けていた蕾がどんどん開花し始めた。ピンクの花びらが美しい。

月桃＝さんにんの花　　２０１１年５月１９日

接写すると、こんな迫力。　少し離れると、右の写真。大雨で、ちょっと痛んでるが大雨の前。１０日ほど前の撮影では、こんな感じだ。

蘇鉄の丸いもの（つぼみ？）が膨らむ

２０１１年５月１５日

蘇鉄の中央の丸いものがふくらんで、どんどん大きくなってくる。

ユリの開花　　２０１１年５月１４日

寒さのせいか、例年より１ケ月近く遅い。

梅雨空で、元気もない。そこで、手でもたげて撮影。

元気のないもう一つの理由は、近くのヤシやライチなどが大きくなって、ユリが日陰になってきたことだ。

植えてから、５～６年になるが、今年が花数も一番少ない。

落花後の移植を考えている。

スパティフィルム　本日開花

２０１１年5月１０日

梅雨に入ったせいか、開花し始める。これからが季節

写真の後ろの葉は、ポトス。

我が家自慢の二段花ハイビスカス、今年もますます美しく

２０１１年4月３０日

今年は、寒さと少雨で、いつもより盛んではないが、３日前の前でようやく元気に。

この木は、多くの人に差し上げた。

蘇鉄の新葉いろいろ

２０１１年4月２８日

庭・畑のあちこちの蘇鉄が新葉を出している。成長度によっていろいろ
前ページ下の左は、昨年植え付けたもの。３番目に紹介する大きなものの赤ちゃんだ。芽がでたばかり。
前ページ下の右は、４，５年前に植え付けたもので、我が庭では３番目の大きさ。　葉が開き始め状態。

上左右は、我が家最大のもの。葉が開いている最中。すでに幹の高さが５０センチ以上になっている。

森の中の我が家　中山バス停から見る

２０１１年4月２７日

中山バス停から、東南方向を見ると、森の中に我が家が見える。右手に太平洋。左写真が遠景　右がズームアップしたもの。
我が家の左手には、ウスク（アコウ）の木とモクマオウの木。両方とも巨木だ。
丘の上に見える建物は、ＫＤＤＩ.

我が家にこられる方は、地図やカーナビを使うと、まずは来られない。地図やカーナビには、我が家はのっていないからだ。カーナビに番地を入力すると、別の山の中につれていかれる。
しかし、この景観をイメージしてこられるとＯＫだ。一番いいのは、中山バス停で、我が家に電話すること

だ。ここから徒歩５分だ。

鮮やかな紅白　ブーゲンビリアとティートリー　我が家　　２０１１年4月２６日

国道 331 号線の中山バス停から、中山集落を通って、新原ビーチ方向へ１５０メートルほど行って、左側を見上げると、我が家が見える。

鮮やかな紅白のコントラストをなす、ブーゲンビリアとティートリーの花、そして我が家が美しく見える。

ブーゲンビリアの赤い花は、我が家のシンボルになった感じがするが、この季節だけは、ティートリーの白い花も強い印象を与える。いつもの年は、３月末からこんな姿が見られるが、今年は遅い。

キバノタイワンレンギョウ（キバタイワンレンギョウ）

２０１１年４月２５日

ここに住み始めた当初、苗３本を大変安価で買ってきた。

そのうち一本を玄関脇に植える。

成長がとても早い。どんどんカットしているが、今や高さ４メートル。

２階中庭から、３階の橋の欄干を超えている。

花は、タイワンレンギョウとは異なり、いじらしく咲く。

上左の写真は、２階から写した。

上右の写真は、３階から写す。

タイワンレンギョウの開花　２０１１年４月２３日

３，４年前に鉢植えにしたが、どんどん生育して、露地植えに。

美しい花だ。

オクラレルカ　２０１１年４月２１日

２，３年前、我が家の訪問者からいただいた苗が成長して、立派に成長。

ハイビスカス　シュンギク　日日草　コデマリ　　２０１１年4月２０日

右上は、収穫しきれなかったシュンギク
中左は日日草　　中右はコデマリ

アマリリス　ティートリー　ボリジ　　２０１１年4月２０日

右　ボリジの花はほとんどが青のなか、ピンクのものが可愛いい。

満開のブーゲンビリア　　２０１１年4月１４日

日照と少雨のため、今年は色づきがいいと、今日の新聞にあった。我が家のもそうだ。

１２月から１月の満開についでの満開だ。
数えてもいなかったが、どうやら年に３回か４回満開になるようだ。
写真は、３階ベランダからの下へと見たものと、庭から上を見上げたもの。

ホコバテイキンザクラ　　２０１１年４月４日

恵美子が近隣から小枝を挿し木しておいたものが、きれいに開花する。せっかくだからと、大きな鉢に移植する。

一体何者だ、というので調べる。

ホコバテイキンザクラといって、キューバ原産のようだ。

そういえば、近所には、結構大きな木がある。

この木は３メートルぐらいの高さになり、ほぼ年中開花するようだ。

シッサス　　２０１１年４月２日

今年の冬の寒さで、しばし成長をやめていたが、暖かい時に急成長しはじめた。南から我が家を見ると、２００～３００メートルぐらい離れていても、シッサスとブーゲンビリアがよく見える。シッサスはあまり見かけないものだから、「あれは何だ」とよく聞かれる。

最初は、我が家を訪問した知人が、１０センチくらいの小枝を首里からもってきて、「植えてみたら」というので、試しにしたものだ。あれよあれよ、という間に大きくなった。「何者か　正体不明」では困るので、蔦植物の本を買ってきて、やっと「シッサス」と判明。

最初は、鉢植えにしていたが、あまりにも成長がいいので、露地植えに変えた。現在高さ１０メートル、幅３～４メ～トルをおおう。

途中から出す赤い気根も風情があるものだ。

とらのおらん＝サンスベリア「並木」　　２０１１年４月２日

とらのおらん＝サンスベリアは、しばし前にブームだった。愛知あたりでは高い値段で売られている。しかし、私にとっては馴染みのもので、買うようなものではない。３０年余り前の小波津団地時代には、ブロック塀の上の穴に連続して植えて、小さな「並木風」にしたこともある。

ここ玉城に移ってきた時、何人かの方からプレゼントされたこともあり、露地植えにして殖やしてきた。生命力が強く、

地下茎でどんどん殖える。予定場所をはみ出てくるものも多い。そんなものをどんどん移植していく。今は、庭の南端の石垣に上に移植して、この石垣の上に長さ１０数メートル高さ５０センチの「並木」を作りつつある。

蘇鉄の新芽　　２０１１年3月２３日

中央に見えるのが、あと数日で開いて新葉になる。

我が庭には、すでに大きくなった一本のほかに、昨年植えたばかりの数本、そして写真の大きさのものが 2 本ある。この 2 本は、5 年前に、既存の蘇鉄にできた赤ちゃんをとって植え付けたものだ。だいぶ大きくなって、来年ぐらいになると、幹が見えるようになるだろう。

バラ　　２０１１年3月１８日

昨年購入した苗がしっかり根付く。

これから盛んに開花してくれると、期待している

ユーフォルビア・ダイアモンドフロスト　　２０１１年3月１７日

昨年購入したもの。

年中咲いている感じだが、盛んに咲く季節になってきたようだ。

生育旺盛で、株分けした

ハイビスカス　２０１１年3月１５日

すさまじくでかい花。

いつも通っているマッサージのお家で、立派なのに見とれていると、奥さまがわざわざ接ぎ木をして、苗を下さった。

今年は、もう３輪目だ。

我が家自慢のハイビスカスの一つだ。

マンゴー・ライチ・メイフラワー・クロキなど　我が庭・畑の鳥瞰

２０１１年3月６日

３階ベランダからの撮影

左写真は、東より　左からメイフラワー、ライチ＝レイシ、マンゴーの順　　マンゴーが巨大だ。三つとも開花中。　マンゴーは、すでに実をつけているのもある一方で、現在開花中もある。

右写真は、西より　手前はマンゴー、ライチ、クロキ、中ごろにティートリー、右側はチシャノキ、向こうに、玉城・新原へ通じる道路や隣家が見える

もう一つのセイロンベンケイ

２０１１年2月１５日

セイロンベンケイには２種類ある。
２月６日記事のものより、遅めの開花が今回のものだ。
地味目で、奥ゆかしいというべきか。

リュウキュウコスミレ　２０１１年2月９日

暖かくなって、畑のあちこちで開花しはじめた。
名前がわからなかったので、図鑑で探した。ポピュラーなもののようだ。
育てているわけではなく、「雑草」として成長しているのだ。

右は横から撮影

セイロンベンケイの開花　２０１１年

２月６日
セイロンベンケイ開花真っ盛り
左写真は上から見たもの

セイロンベンケイの生命力はすざまじい。なにもしなくても、どんどんふえる。作業と言えば、どんどん取ることぐらいだ。

千年木の開花

２０１１年1月３１日
このところ、鳥の餌になっている。
ハト、メジロ、イソヒヨドリなど

外 壁を登る巨大ポトス　　２０１１年1月４日

ポトスは、縦にも広がる。

二段花ハイビスカス　　2011 年１月１日

花が二段になっているように見える。鮮やかな赤だ。

住み始めたころ、どなたかのプレゼントでいただいたが、どんどん成長している。

挿し木で簡単に殖やせる。我が家には６本も育っている。

年中咲くが、今が一番美しいし、たくさん咲く。

恵美子は、花を集めて、草木染めにした。